

RÉPÉTITION SOUVERAINE レペティション・スヴラン



超薄型・超軽量ミニッツリピーター

フランソワ・ポール・ジュルヌは革新的であり、かつ実用的な要素も兼ね備えた時計の発明と製作を絶えることなく続けています。彼は、初めて製作した超薄型・超軽量ミニッツリピーターによって、これらの二つの要素を再びまとめ上げることに成功しました。

グランソヌリを除けば、ミニッツリピーターは技術的、芸術的な点から極めて高度な技量を要求する複雑時計の中においても、最も複雑かつ洗練されたものといえます。

現時点において、ミニッツリピーター機構を備えた最も古い時計としてはドイツのフライブルクで 1710 年ごろに製作されたものが知られています。この発明により(文字盤を見ることが困難な)夜間に時間を知らせることが可能となりました。ケース上のボタンを押し込むことによって起動される内部の複雑な機構が 2 個のハンマーを動かしてゴングを叩き、時、クォーター(15 分)、分という単位の音の組み合わせを介して現在の時間を持ち主に語りかけるのです。

この新しい超薄型・超軽量ミニッツリピーターを発表することによって、フランソワ・ポール・ジュルヌは、ストライキング・ウォッチ(グランソヌリ、ミニッツリピーター、クォーター・リピーター等々の総称)の基準を更に引き上げました。彼は、一見不可能なまでに薄いムーブメントから非常に澄んだ音色を響かせることを可能にしたのです。これは、まさにミニッツリピーター機構の再発明と呼んでも過言ではないでしょう。この手巻きムーブメントはかろうじて 4.50mm を超える程度の厚さにすぎないため、極めて入り組んだ複雑な機構というよりは、シンプルな手巻きムーブメントを思わせます。このムーブメントは開発中に2つの特許を申請しています。

ステンレス・スチールケースに超薄型 18K ローズゴールドムーブメントを搭載し、驚くべき軽さ 69.6g (ストラップを含む)を実現しました。レペティション・スヴランは、世界でも超軽量の複雑機構の腕時計の一つと言えるでしょう。

特許を取得した、他に類を見ないレペティション・スヴラン

2 つの重要な技術開発を成しえたことによって、フランソワ・ポール・ジュルヌは大変美しい音色を生み出す超薄型ミニッツリピーター・ムーブメントを製作することに成功しました。最初の1つは、板状のゴングです。F.P.ジュルヌのグランソヌリで最初に採用されたこのゴングは、従来のそれにくらべより大きく、美しい音色を生み出すことができます。そして、ゴングスプリングを外周に組み込むことでサイズに制約を与えざるを得なかった従来のものに比べ、文字盤の下にゴングを組み込むことによってより多くのスペースをムーブメントに与えることができるのです。

2 つめは、従来のストライキング・メカニズムに比べ、より省スペース設計がなされたストライキング・ラック及びストライキング・システムです。従来のミニッツリピーターとは異なり、クォーターのチャイムが鳴らない場合（例えば 1 時 14 分）時間と分のチャイムの間には、自動的に休止が挿入されるようになっています。これによって、レペティションミニッツ・スヴランは、1 個のハンマーが時と分の両方を打ち分けます。クォーターの音は古典的なダブルチャイムです。チャイムのスピードをコントロールする新設計のイナーシャ・レギュレーター（所謂ガバナー）は、従来のエア・レギュレーターを組み込んだミニッツリピーター機構に多く見られるノイズの発生を最小限に抑えることに成功しています。

過去、フランソワ・ポール・ジュルヌの比類ないスタイルは幾度かコピーされました。しかし、彼の高い技術開発能力を模倣するのは極めて困難です。複雑時計のランキングにおいてまさに最高得点を記録したグランソヌリを生み出した後、フランソワ・ポール・ジュルヌは、もう一つの比類ない複雑機構を備えた腕時計、すなわちレペティションミニッツ・スヴランを追って発表することを心に決めていました。

ケース

ステンレス・スティールは他の全ての金属よりも、より良く共鳴します。フランソワ・ポール・ジュルヌの妥協を許さないスタイルにおいては、とりわけパフォーマンスと機能が重視されます。従って、ソヌリ・スヴレンヌと同様の美しい旋律が、レペティション・スヴランのステンレス・スティール製ケースから響くのは当然と言えるでしょう。

ムーブメント

21,600v/h 振動の手巻きムーブメントのベースプレートとブリッジは、18K ローズゴールドで製作されています。組み込まれたツインバレル（2 個の香箱）は、パワーリザーブ・インジケーターが示す 50 時間以上の間、可能な限り安定した力を供給するために並列に（同時に）作動します。対称に配置された 4 個の変イナシャブロックを備えた F.P.ジュルヌ フリースプリング・バランスは、時計がとり得る 6 つの姿勢においてバランスホイールにひげゼンマイを取り付けた状態で微調整されています。（ダイナミック・バランス）

限られたスペースに配置された数多くの部品

レペティション・スヴランは、その技術的背景をクロノメーター・スヴランと共有しています。しかし、ミニッツリピーター機構を組み込むことによって、部品点数は実にほぼ 2 倍に達しました。それにもかかわらず、フランソワ・ポール・ジュルヌはムーブメントをわずか 4.50mm の厚さに収めることに成功しました。

レペティション・スヴランの技術仕様

ムーブメント:	キャリバー FPJ.1408 手巻き(巻き上がるまでに約 38 回) ベースプレートとブリッジは 18K ローズゴールド製
ムーブメントのサイズ:	ムーブメント直径: 32.20 mm ケーシング直径: 31.60 mm ムーブメント全高: 4.50 mm 巻き芯までの高さ: 2.38 mm 巻き芯のネジ部分の直径: 50.90 mm
バランスホイール:	4つの調整用イナーシャウエイトが付いたバランスホイール アナクロン・フリースプリング・フラットヘアスプリング 可動式ヒゲ持ち受け コレットとヘアスプリングはニヴァトロニックのレーザーによって固定 ヘアスプリングはヒゲ持ちヘピンによって固定 振動数: 21,600 振動/時 3Hz 慣性: 10.10 mg・cm ² 拘束角: 52° 振り角: 全巻き上げ水平姿勢: > 320° 24 時間水平姿勢: > 280°
主な特徴:	任意に作動させることの可能なミニッツリピーター機構 リューズを一段引いた状態(ポジション 2)で時間調整が可能 ケース側面のシングルスライドでミニッツリピーター機構を作動 15 枚歯のガンギ車を備えたレバー・エスケープメント 並列にレイアウトされた 2 つの香箱 2 つのポジションを備えたリューズ
表示:	文字盤中央に時分針 7 時 30 分位置にスモールセコンド 3 時位置にパワーリザーブ・インジケーター 文字盤の一部が切り欠いてあり、ハンマーを見ることができる
パワーリザーブ:	約 56 時間
仕上げ:	ボトムプレートは同心円状の仕上げ ブリッジはコート・ド・ジュネーブ仕上げ 3D エングレービング スクリューは面取り及び研磨仕上げ ブリッジの位置決めするためピンは先端が研磨仕上げ スチール製部品は手作業で研磨及び装飾
文字盤:	シルバー製 センター部分は、クル・ド・パリ パターンのギョーシェ仕上げ 同心円状に仕上げられた(モワレ仕上げ)スモールセコンド及びパワーリザーブ・インジケーター サテン仕上げを施されたチャプターリング (インデックスが配された部分) スモーク仕上げのサファイアクリスタル(ブティックのみ) 数字と時間表示はアイボリーの印字 ブルースティール・ハンド
ケース:	素材:ステンレス・スチールまたは 18K 6N ゴールド ケース直径: 40.00mm ケース高さ: 8.60mm
部品点数:	ムーブメント単体(文字盤を含まず): 312 点 ケーシングされた状態(レザーストラップ付): 338 点 石数 33 石